

2025年9月18日

地元企業のサーキュラーエコノミーへの取組支援について ～中古衣料品を循環活用する新事業創造をサポート～

武蔵野銀行（頭取 長堀 和正）では、持続可能な地域経済・社会の実現に向け、さいたま市でクリーニング・リネンサプライ事業を営む株式会社武蔵屋（さいたま市見沼区、代表取締役 小林 総子）のサーキュラーエコノミーへの取組支援を行っております。

今般、同社によるサーキュラーエコノミーの事業構想が、公益財団法人埼玉県産業振興公社の事業化支援補助金の対象として採択され、具体的な取組みがスタートしますのでお知らせします。

株式会社武蔵屋は1948年にクリーニング店として創業、現在は18店舗の運営に加え、リネンサプライ業として「お客様に感謝し、お客様にご満足頂く」を原点に丁寧なサービスを提供しています。

同社ではかねてより、不要となった子ども服をクリーニング店舗で無料回収する地域貢献・社会貢献の取組みを行っており、2024年からは、回収した子ども服をリユース用にクリーニングしたうえ無償譲渡する、子育て世代支援イベント「ココロつながり ふくふくマルシェ」を当行と共同開催しています。

今般の事業構想は、同社が展開してきた地域貢献・社会貢献の取組みをサーキュラーエコノミーのモデルに発展させるべく、店舗での回収対象を幅広い世代の洋服へと拡げていくとともに、リユースだけでなくリサイクル・再製品化に繋げていくことを企図しています。

当行では、同社の構想実現に向け、事業パートナーのマッチングをはじめ全般的なコーディネートを行うとともに、公益財団法人埼玉県産業振興公社の「サーキュラーエコノミー事業化支援補助金」の申請を支援いたしました。また、今後につきましても、同社の新事業創造を多面的にサポートしていく予定です。

《概要》

採 択 補 助 金	公益財団法人 埼玉県産業振興公社 「令和7年度サーキュラーエコノミー事業化支援補助金（2次募集）」	
テ ー マ	クリーニング店舗を活用とした地域の衣料品循環拠点モデルの実装	
事 業 者	申請者	株式会社武蔵屋
	パートナー	武蔵野銀行 一般社団法人 テキスタイルサーキュラーネットワーク ^注 注 繊維製品のリユース、リサイクルを促進する循環型ビジネスモデルを創造するために、リサイクル繊維製品の商品的価値、社会的価値の向上（アップサイクル）を図り、必要な素材化・製品化・商品化への提案に関する事業並びに新たなビジネスモデルの構築と事業化やそれに伴う雇用を創出することで地域経済・社会に貢献することを目的とする。
概 要	・ 地域密着型クリーニング店舗を資源循環拠点として常設化し、テキスタイルサーキュラーネットワークとの連携により回収後の衣料品の選別・リユース・リサイクル・再製品化まで一貫するスキームを新規に構築する。 ・ 工場負荷の平準化と回収機会の最大化を図り、県内初となる生活動線型サーキュラーエコノミーモデルを新規に構築する。	

以 上

報道機関からのお問い合わせ先
地域サポート部 地域価値創造室 郷 大助
TEL (048) 641-6111 (代表)

【参考1】事業構想イメージ

(株)武蔵屋を中心としたサーキュラーエコノミービジネスモデル



- ① 株式会社武蔵屋では、クリーニング店舗に回収ボックスを設置し、従来の子ども服に加え、家庭で不要となった洋服全般を無料回収する。
- ② 回収した洋服の中から、リユースできる子ども服はクリーニングを行い、無償譲渡イベント等で子育て世代に提供する。
- ③ そのほかの洋服は、一般社団法人テキスタイルサーキュラーネットワークが一括回収し、種類や品質、状態等で分別し、リユース、リサイクル、再製品化に活用する
- ④ 再製品化のひとつとして、株式会社武蔵屋はクリーニングバッグやハンガーを試作・提供し、サーキュラーエコノミービジネスモデルを構築していく。

【参考2】子ども服無償譲渡イベント



(株式会社武蔵屋ホームページより引用)